

財務諸表の表示 ディスカッション・ポイント （2009.10.15）

ASBJの今年9月のプロジェクト計画表に基づき、論点整理に寄せられたコメントも踏まえ、「包括利益の表示」等に関する会計基準の公開草案の公表(今年12月を目標)に向けて検討を行う。

1. ディスカッション・ポイント

①包括利益の表示を導入について

論点整理のコメントでも、当期純利益の維持を前提として包括利益の表示の導入を支持する意見が大多数であったことを踏まえ、現行の当期純利益の表示とリサイクリングの維持を前提に、包括利益の表示を導入することでどうか。

②包括利益の表示方法について

論点整理のコメントでは「2 計算書方式」を支持する意見が大多数であったが、「1 計算書方式」に利点を認める見方もあることや現行 IFRS (IAS 第 1 号) では「1 計算書方式」と「2 計算書方式」の選択が認められており、IASB や FASB では「1 計算書方式」のみとする方向で検討が進められていることなどを勘案し、短期的な対応としては、「1 計算書方式」と「2 計算書方式」の選択を認めることでどうか。

その場合、連結財務諸表における具体的な表示方法に関しては、親会社株主と少数株主のそれぞれに帰属する部分の表示の仕方には複数の案が考えられるが、どのように表示するのがよいか。

③適用範囲について

上場会社において連結財務諸表を作成しない会社もあることなどから、包括利益の表示については、個別財務諸表と連結財務諸表の両方に適用することでどうか。

④適用時期について

現行の財務諸表からも集計することが可能であることも踏まえ、コンバージェンスを加速する観点から、公表から1年程度の準備期間とし、平成23年(2011年)3月期の年度財務諸表から適用することでどうか。

2. 今後の審議予定

10月29日委員会審議で、包括利益の表示の導入及び表示方法に関する「意思確認」を行い、それを踏まえて、11月以降の委員会審議では公開草案の文案検討を予定している。なお、財務諸表表示専門委員会は、委員会での審議を踏まえ、10月27日、11月9日、11月24日に開催し、審議を行う予定である。